

蕨市多文化共生推進市民懇談会（第2回） 議事録

| | |
|----|---|
| 日時 | 令和5年3月25日（土曜日） 開会：午前10時00分 閉会：午前11時30分 |
| 会場 | 蕨市仮説庁舎 3階 委員会室 |
| 出席 | 林大樹、植田富美子、上野梢、荒井紀子、渥美恵子、阿部恒男、石村宗侑、鈴木幸義、長谷川浩司、藤田明、佐原勝次 各委員 事務局（室長・倉石、係長・庄野） |
| 資料 | 令和4年度蕨市多文化共生推進市民懇談会第2回資料 資料1 令和4年度蕨市多文化共生推進市民懇談会第2回資料 資料2 蕨市多文化共生推進概要版 資料3 『わらびらいふ』2022年10月 Vol. 1 資料4 生活ガイドブック骨子 |

1. 開会（公開・傍聴希望者なし）

2. 議題

- (1) 蕨市多文化共生指針に基づく取り組みの「①令和4年度取り組み状況」について
議題の蕨市多文化共生指針に基づく取り組みの「①令和4年度取り組み状況」について事務局から説明。

【質疑応答】

(委員) 『わらびらいふ』の発行が少ないのではないのでしょうか。公民館に置いてあったのは見ましたが、だれもが皆「知らない」と言います。また、『わらびらいふ』を紹介しておりますが、「どこにありますか」と訊ねられます。印刷部数が80部で少ないと思います。ご検討をお願いします。

(事務局) 今後より多くのところで目立つように置いていきたいと思います。

(委員) 「世界のことばであいさつ!!」は、際立つようにはっきりと大きな文字にしたらどうですか。

(事務局) 確かに目立たないので、文字表示のあり方について検討したいと思います。

(委員) ご検討よろしくをお願いします。(『わらびらいふ』で) QRコードがあるのはいいと思います。

(事務局) QRコードは、ホームページにアクセスしてGoogle翻訳を利用することで、『わらびらいふ』を外国語に変換できます。また委員から、日本人は外国人に寄り添う姿勢が必要だ、と前回ご意見がありました。普段の日常生活の中で「あいさつ」を励行することによって、簡単ではありますが、日本人住民と外国人住民とのつながりをつくるコミュニケーションや、交流を広げる啓発の機会を図っています。

議題（１）の蕨市多文化共生指針に基づく取り組みの「②令和５年の実施計画」について、事務局から説明。

【質疑応答】

（委員）新庁舎で、外国人住民の「相談体制の充実」を図る際には中国人の方を採用するのでしょうか。

（事務局）出来れば中国人の方を採用したいと考えています。本当に困ったことの相談に寄り添うためには中国語が話せるだけではなく、市民に寄り添ったアドバイスができるよう配慮しています。

（委員）私も同意見です。日本の生活・教育・医療は、中国とは制度・仕組みが異なり非常に理解しづらいです。例えば、帰国する際などでも様々な問題があります。可能な限り日本人ではなく、中国人の方のほうが相談者の悩みに寄り添えるのではないかと思います。是非、よろしくお願いします。もう１点ですが、この相談員は常時勤務しているのでしょうか。

（事務局）月曜日から金曜日の平日に９時から１７時までの時間帯で勤務をしていただく予定です。

（委員）生活ガイドブックに関連して、市ホームページでは随分空白がありますが、今後ホームページを作成する際にはどのようなようになるのでしょうか。

（事務局）仮案になりますので、各分野に基づき担当部署にどのような情報や、問合せが多いのか確認を取って空白を埋めていきたいと考えています。

（委員）「日本語学習の充実」とありますが、どれくらいの頻度で、どのように計画しているのですか。日本語教室は、基本的な整備がなければ上手くいかないと思います。日本語教育の推進に関する方針などはあるのでしょうか。

（事務局）「日本語教育の充実」に関しては、転入してきた外国人の方にボランティアサークルによる日本語教室を案内しております。また、ボランティア人材の育成においては、日本語ボランティア養成講座がコロナの影響下でこれまで開催できませんでしたが、本年度は２月と３月にとり行いました。参加者は７、８名で少ないですが取り組みを進めている状況です。教育委員会では、生涯学習推進計画があり明記されていますが、どのように推進していくか把握できておりません。これから確認を取りたいと思います。また、小・中学校では日本語特別支援教室が設けられています。日本語指導が必要な児童生徒を対象に、主に個別指導により初歩的な日本語や学校生活の決まりなどを学習する教室で、安心して学校生活を送ることができるように支援することを目的としています。以上、行政的にはボランティアによる日本語教室と日本語特別支援教室を支援しています。

（委員）日本語教室では、外国人住民が日常生活に必要な会話を重点的に学んでいますが、それぞれ外国人住民のニーズが異なるので個別に対応します。そのため、ボランティア側で要望に対処することの難しさがあり、（ボランティア人材の）人数的な課題もあります。現在、各公民館で開催していますが、日本

語を身近な地域で学習できる環境を整備してもらいたいです。市内では塚越地区だけ教室がありません。地域に根差して活躍できる（ボランティア日本語教室の）人材発掘が不可欠だと思います。

(委員) 以前、西公民館では1年掛けてボランティア養成講座を開催していました。(講座内容は)最初の導入部分から日本語の基礎知識などがあり、日本語指導法の基礎が学べます。最終的には、日本語や教科の学習支援の実演も行います。最近、中央公民館で募集をしていますが、修了に向けて1年掛け受講する人はいるのでしょうか。日本語教師の給料は高くないと聞いています。国として日本語教師の能力を保証し改善して欲しいです。

(委員) (日本語教師は)非常勤の人が多くて不安定な状態になっています。ようやく、賃金を上げるということになりましたが、ただ物価も上がっているので実質賃金は上がっていません。ボランティアではなく生活費が必要な人もいます。

(委員) これから多文化共生社会になるのであれば、(日本語教育事業が)学校だけではなく公民館にも地域にも身近にあったほうがいいと思います。

(事務局) 日本語教育の人材も含め、地域づくりの担い手となるキーパーソンを防災面など様々な事業を通じ、どのような人材が必要なのか。そして、市民活動推進室以外でも公民館なども通じて担い手を育成していきたいと考えています。

(委員) 『指針』の中で「キーパーソン研修の実施」とありますが、これは何か実施されているのですか。

(事務局) 検討中でまだ実施していません。もっとも防災大学校があり、その中で災害時における支援活動に取り組む防災リーダーの育成が、キーパーソンづくりの一環にもなると考えています。

(委員) 予算が付いているところではないのですか。

(事務局) 実のところ、外国人住民の年齢層に関しては30～40代が中心で、その中でも永住者が多い状況にあります。この市民懇談会委員でも、外国人の方に委嘱しておりますが、働いている方なのでこれまでに参加いただけておりません。どのように巻き込んでいくか大きな課題となっています。ですので、本年度も防災関係の講座で考えています。どのように人を呼び込むのか、外国人留学生や外国人コミュニティがどこで育まれているのか。そして、行政のイベントや取り組みを説明する機会を設けると同時に、それらへの参加を呼び掛けてムーブメントを起こすことが重要です。その上で「キーパーソンの研修」が実現するのではないかと考えています。

(委員) わかりました。

(委員) 10月から新しい庁舎がオープンになります。そこでは、外国人住民からの相談ニーズに応えるため、一元的相談窓口が設置されると思います。本年度の実施計画にはそれが入ってくると思います。災害の問題、ごみの問題、言葉の問題など一つひとつクリアしていかなければならないです。他にありませんか。

- (委員) キーパーソンは必要だと思います。実は、昨日からアメリカのエルドラドの方が滞在しています。私は会長ですが他に経験者がいません。長く務めている方は年齢ということで辞めてしまっています。そのような実情で総じて私が担当し、みなさんに覚えてもらいたくて事細やかにやっています。もうひとり私のように知っている方がいればいいと思います。これは経験なのです。そういったものが代々受け継がれているような組織を作って欲しいです。なんととっても、キーパーソンを増やすことで組織を作り、それを改革していけばよいのではないのでしょうか。そのため、キーパーソンの育成はとても嬉しく存じます。
- (委員) エルドラドも後継者を育てながらで代表者の方は大変だと思います。事務局はどうですか。
- (事務局) キーパーソンの育成を早く事業として位置付けしなければならないと思います。庁内連絡会でもさっそく検討する必要があります。
- (委員) ボランティア日本語教室で西公民館だけが無料なのですか。
- (委員) ボランティア日本語教室はそれぞれの団体に運営しています。基本的に費用はテキスト代になります。
- (委員) 資料の3ページに「外国人住民用情報コーナーの設置」がありますが、どのような場所に設けられるのでしょうか。
- (事務局) 場所は1階のカウンター脇になります。
- (委員) 公民館など地域の憩いの場などに設置することはないのですか。
- (事務局) 公民館にも諸々の書架があります。但し、多数のチラシがありその一角に設置するのは難しいと考えています。
- (委員) 市役所に行かなければならないのですか。
- (事務局) そうなります。それから、市の情報は市民活動推進室がウェブサイト上に掲載していくことになります。
- (会長) 現在は市民会館入口に設置してあるのですか。
- (事務局) 現在、広くないのでそういった情報コーナーが配置できない状況です。
- (委員) イベントの行事が無料で参加できること等について、外国語に対応した外国語チラシを作成しました。是非とも外国人住民の方に来て頂きたいです。
- (事務局) 生涯学習関係のイベントに関しては、その担当部署が啓発をやることになります。外国人住民用情報コーナーは、あくまでも（生活上の）相談等に関する外国人住民のみなさんに役立つ情報が基本になります。

(2) 各団体からの多文化共生に関わる意見や、令和4年度に取り組まれてきたことなどについて

【質疑応答】

- (委員) コロナでこれまで滞っておりましたが、やっと本年度はドイツのリンデンから連絡がり、(国際交流事業の) 調整をすることが決まっています。その際に

は、市の国際青少年交流と共に取り組みということで、市の代表が一人参加します。通訳は、ドイツに日本語ができる人が沢山いますので、その人達にお願いする手筈を整えています。2、3日前にはリンデンの会長から、正式な招待状が市議会議長との連盟で届きました。正式訪問ということで決定しております。これで、今後の交流が動き出すと思います。また、これまで参加した青少年らがWICA（ワイカ）という団体を作り、市内の様々なところで現在活躍しております。

- (委員) 私達は、コロナ禍でもやれることはないか、と考えていました。6月に音楽コンサートをくるるで開催しました。そして、1月15日にはアメリカのエルドラドと、ZOOMオンラインで45周年記念行事を3年遅れで開催しました。ZOOMを使ってエルドラドの青少年と、蕨市内の中学生との交流が行われました。それなりに良い成果があったと思います。
- (委員) 文化協会は、昨年文化祭行事で多言語のチラシを生涯学習スポーツ課に依頼し、各町会の掲示板に貼っていただきました。さらに、令和6年には60周年記念行事があります。(外国人住民に)言葉が分かってもらえなくても、身を持って味わうことができるので参加していただきたいです。
- (委員) WICAで青少年活動ということで活動しております。今年度はエルドラドの45周年記念行事、「みんなの広場」など色々参加させていただきました。また、WICAの中でも一部のメンバーになってしまいますが、宿場祭りでウクライナからの避難民の方と交流しました。ウクライナの方には日本の着物を着て楽しんでもらいました。私は、通訳兼たくさんのお話を一緒に交流をおこなうことで、ウクライナの現状について学び、他にも文化の違いなどに気づくことができました。また、青少年の団体ということで、大それたことはできないのですが、国際交流が再開した折には海外からの青少年らと、文化の違いなどを一緒に体感していきたいと考えています。
- (委員) 私は人権擁護委員をさせていただいております。私が市民の方と直接関わるのは人権相談になります。毎月1回第3金曜日の午前中に相談を受け付けております。人権相談とは言っても人権にこだわるものではありません。現在6名の人権擁護委員がいますが、人生相談や悩み・不安を抱える市民の相談を受け、その問題の解決や解消を行っております。しかし、残念ながら外国籍の方の相談や、多文化共生に関する相談は殆どありません。こちらとしても、ただ相談所を開設して相談が来るのを待っているだけではなく、市で行われる国際交流イベントや宿場祭りに積極的に足を運んでパンフレットを配ったりするなど、人権相談所があることを市民の皆様に広く周知を図りたいと思います。
- (委員) コロナが治まり日本語教室に参加する外国住民が増加しています。しかしながら、学習者に対応するボランティアの問題があります。新たなボランティアの育成や、高齢化などにより人材確保が課題となっています。また、資料などを見ていると、中国籍の方は市内で住宅を購入するなどして生活して

います。学校に通う子どもたちにとって、大きな問題としての言葉の壁や、文化、習慣の違いがあります。教育委員会が担当になると思うのですが、学校において日本語指導が必要な児童生徒の教育に、もっと積極的な取り組みを進めていただきたいと思います。

(委員) 公衆衛生推進協議会です。ごみの問題が1番です。外国人住民にはごみの分別が複雑のようです。地域には日本語が話せる外国人住民が必ずいます。そのような方に通訳をお願いし、ごみ出しのルールについて説明してもらっています。また、外国語で書かれたごみ出しのパンフレットもあります。各町会には理事がおりますので、それぞれ理事をお願いをすれば、掲示板に外国語版「ごみの分け方・持ち出し方」のパンフレットを直ちに貼ります。

(委員) 商工会議所の立場で申し上げます。企業経営者の方とは日々接しておりますが、外国人経営者は言語の問題がなく、流暢な日本語でやり取りをしています。そして、事業経営を始める外国人が近年増加しております。こちらの経営サポートの中でも、外国人起業家の方に向けて国のサポートメニューがあり、起業計画力などを高める支援があります。加えて、経営を適切に行うために予算管理なども一緒になって考えます。特に、中国籍の経営者が多くさまざまな面で経営のお手伝いをしています。さらに、3月末までは市からの委託で、マイナポイント設定等手続の支援窓口を設置していましたが、ずいぶん外国人住民の方が来ていました。蕨市には外国人住民の方がたくさん住んでいる、ということを実感しています。他にも、私どもは、蕨駅前にセレクトショップを別会社で経営しておりますが、そこで双子織が織れる機織り機を所有しています。コロナ禍でイベント事ができない状況がありましたが、この程、都内の日本語学校から問合せがあり、外国人の方が日本の文化に触れるために双子織を織るところを見せて欲しい、との要望がありました。あと、キーパーソンですが、外国人・日本人を問わず主体的に活動するまちづくりプレイヤーを、あらゆる分野で人材発掘・育成をして欲しいです。現在、行政課題を解決するには、行政だけではできなく、このような市民懇談会があると思います。上手くいっている自治体は、キーパーソンを巻き込んで地域の問題を解決し、その発展につながっていきます。これからは、人材発掘に向けた様々な仕組みが必要です。

(委員) 南町では、ここ数年で外国人が増えた感じがあり、外国籍の子どもたちが授業に付いていけないような思いがあります。また、外国人住民が日本の交通ルールを理解できるようにするための取り組みで、外国人住民と日本人住民がともに安心して暮らせる環境になると思います。

(委員) 私は居場所づくりに関心があります。蕨でつくろうとしましたがとても困難でした。私は蕨育ちではないので、知り合いがいないと相当難しいところです。国立市の大学に勤務していますが、国立市では色々な環境が出来て居場所づくりができています。居場所は、別な言い方をすると、サード・プレイスという言葉が流行っています。第三の場所という事です。第1の場所が

家庭だとしたら、第2の場所は大人では仕事をしている人が多いので、職場ということになります。子どもの場合は学校に行くので放課後学校などになり、文部科学省も家庭が居場所として成立していない子どもがいて、学校を居場所の一つにしようと思いました。しかしながら、子どもたちの抱える困難さが学校にあつたりして無理があります。市役所の施策としてキーパーソン発掘に取り組んでいますが、サード・プレイスに関して申し上げますと、20年前のアメリカの社会学者が、『サードプレイス』というタイトルの本を書いて広く読まれています。そこでは、キーパーソンやボランティアに参加する人は行政が育てるのではなく、地域に人が集まるようなところがあり、それは居酒屋などであったり、テニスやボーリングをしたりするクラブであったりもしますが、行政ではなくて地域のあるところへ行くとホットするような、そこから知り合いができたり、若い人などを惹きつけたりして地域を支える次世代が集まるようになっていたそうです。「なっていた」ということで、実は、アメリカはそれが失われたのです。だから著者は、アメリカにサード・プレイスがあったが、それが無くなってしまった事を嘆いて研究し、ヨーロッパにはサード・プレイスが色々ありそれを調査して本を書きました。サード・プレイスや、地域の居場所は言葉では言えますが、簡単なことではなく、先程事務局からも話がありましたが相当難しいことです。けれども、どこかに蕨なら蕨なりに人が集まってお喋りしたり、問題があったら「あの人」を中心に何かをやってみたり、まさに住民の自治的な場がどこかにあるのではないのでしょうか。そして、それと市の施策がうまく噛みあい、キーパーソンの発掘・育成に役立ちそうな人たちが集まる場で、行政が上手に掛け合うことができないのか、と思っています。

(委員) ネットワークステーションが10年以上経ち先日フォーラムがありました。そこでは会員を増やしたいといった団体で、健康のための麻雀で「麻雀の会」などこれまでにはない活動目的がありました。この10年でスタイルが変わり、居場所づくりの内容が変わってきました。グループのみなさんは意欲があります。後継者というよりは居場所づくりのきっかけとして、市民の皆さまと一緒につくっていきける取り組みを、ネットワークステーションがバックアップしていく予定です。固定観念を取り除き、様々なものを取り入れながら、尚且つ企業や外国の方も含めて一緒に試み、そこでキーパーソンが何人か出てくれば、各団体も再び回復するのではないかと思います。事務局なにかありますか。

(事務局) 既存概念にとらわれず、外国人コミュニティなど多種多様な方面から情報を得る尽力に市民活動が取り組み、キーパーソンの育成に繋げていきたいと思っています。

(3) その他

3. 閉会